科目名	憲法				
担当教員	津野　洋子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法の規定を確認し、人権保障に関して判例・学説を基に様々な解釈を、統治機構に関しては条文を中心に解説をする。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる。 国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」･「基本的人権の尊重」･「平和主義」）の構成が学習でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	憲法１　人権　【有斐閣アルマ】				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	憲法と立憲主義･日本憲法史	配布プリント
2	日本国憲法の構成と基本原理	配布プリント
3	基本的人権の保障･包括的基本権と法の下の平等	配布プリント
4	精神的自由権	配布プリント
5	身体的自由権	配布プリント
6	経済的自由権	配布プリント
7	社会権	配布プリント
8	参政権と国務請求権	配布プリント
9	統治機構の基本原理	配布プリント
10	国会と立法権	配布プリント
11	内閣と行政権	配布プリント
12	裁判所と司法権	配布プリント
13	財政	配布プリント
14	地方自治	配布プリント
15	憲法改正	配布プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	情報リテラシーと処理技術				
担当教員	小柳津　渉		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	６０時間
授業概要、目的、授業の進め方	テキスト教材を中心に情報システムの発展、コンピュータ（ハードウェア・ソフトウェア）、情報ネットワークなどの仕組みについて理解を深めます。また、演習を通じ、パソコンの基本操作、ワープロソフトの基本操作、表計算ソフトの基本操作を学習します。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	パーソナルコンピュータの基本ソフトの役割について理解し、適切な操作ができるようになる。 情報通信技術（ハード・ソフト）について理解し効果的に活用できるようになる。 ワープロ・表計算ソフトの基本操作ができるようになる。　※Word文書処理技能認定試験3級、Excel表計算処理技能認定試験3級合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Word2016クイックマスター＜基本編＞【ウイネット】Excel2016クイックマスター＜基本編＞【ウイネット】Word文書処理技能認定試験3級問題集2016対応【ウイネット】Excel表計算処理技能認定試験3級問題集2016対応【ウイネット】動画で学ぶWord2016＜基本講座＞【ウイネット】動画で学ぶExcel2016＜基本講座＞【ウイネット】				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	情報化社会	配布プリント
2	コンピュータの発展	配布プリント
3	ハードウェア	配布プリント
4	ソフトウェア	配布プリント
5	情報ネットワーク	配布プリント
6	インターネット	配布プリント
7	情報システムの課題	配布プリント
8	Ｗｉｎｄｏｗｓの基本操作	ノートPC実践　プロジェクター
9	文書作成の基本①（書式設定）	ノートPC実践　プロジェクター
10	文書作成の基本②（図形・表）	ノートPC実践　プロジェクター
11	文書作成の基本③（ページ設定）	ノートPC実践　プロジェクター
12	Word文書処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
13	Word文書処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
14	Word文書処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
15	Word文書処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
16	Word文書処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
17	Word文書処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
28	Word文書処理技能認定試験３級受験	
18	Excelの基本操作	ノートPC実践　プロジェクター
19	表計算の基本①（書式設定）	ノートPC実践　プロジェクター
20	表計算の基本②（計算式・関数）	ノートPC実践　プロジェクター
21	表計算の基本③（グラフ機能）	ノートPC実践　プロジェクター
22	Excel表計算処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
23	Excel表計算処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
24	Excel表計算処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
25	Excel表計算処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
26	Excel表計算処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
27	Excel表計算処理技能認定試験3級対策	ノートPC実践
29	Excel表計算処理技能認定試験3級受験	
30	まとめ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は検定試験（Word文書処理技能認定試験3級、Excel表計算処理技能認定試験3級）、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	教育方法論				
担当教員	小柳津　渉		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	選択	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	現代社会において深刻且つ重要な教育問題について具体的内容を取り上げ、教育現場や教育方法についての変遷と現状について理解する。また、今後の教育課題について議論を交えながら学習を進める。 （授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	1.教育現場の変遷について理解する。2.教育方法の変遷と現状について理解する。3.今後の教育課題について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリント　保育所保育指針解説書（フレーベル館）　幼稚園教育要領解説書（フレーベル館）幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説書（フレーベル館）その他配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
2	教育方法の定義　①	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
3	教育方法の定義　②	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
4	授業を構成する要素①	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
5	授業を構成する要素②	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
6	教育方法の歴史①	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
7	教育方法の歴史②	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
8	教授法（体験活動、学びのイノベーション、情報化）①	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
9	教授法（体験活動、学びのイノベーション、情報化）②	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
10	子どもの心の教育（いじめ、不登校）	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
11	保護者対応（カウンセリング）①	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
12	保護者対応（カウンセリング）②	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
13	保幼小連携	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
14	教育時事問題	教育方法論（出版　豊岡短期大学）
15	まとめ	教育方法論（出版　豊岡短期大学）

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	英語コミュニケーション				
担当教員	小林　裕子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	６０時間
授業概要、目的、授業の進め方	英語表現に必要な基礎的な英単語、基礎的な文法等の理解を深める。また、映画や映画音楽、実際のライフスタイルなど視聴覚教材を用いて英語を身近に感じ、興味を持って学べるようにする。 （授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	平易な英語で書かれた物語および英文の内容を理解することができる。 英語表現の基礎となる文法・構文を用いて英文を作ることができるとともに英文の内容を理解することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	Interchange(intro) 4thEdition 【cambridge】				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	What's your name?	UNIT 1 PAGES 2–7
2	What's your name?　Grammar	UNIT 1 PAGES 2–7
3	What's your name?　Speaking	UNIT 1 PAGES 2–7
4	Where are my keys?	UNIT 2 PAGES 8–13
5	Where are my keys?　Grammar	UNIT 2 PAGES 8–13
6	Where are my keys?　Speaking	UNIT 2 PAGES 8–13
7	Where are you from?	UNIT 3 PAGES 16–21
8	Where are you from?　Grammar	UNIT 3 PAGES 16–21
9	Where are you from?　Speaking	UNIT 3 PAGES 16–21
10	洋画鑑賞	解説
11	Is this coat yours?	UNIT 4 PAGES 22–27
12	Is this coat yours?　Grammar	UNIT 4 PAGES 22–27
13	Is this coat yours?　Speaking	UNIT 4 PAGES 22–27
14	What time is it?	UNIT 5 PAGES 30–35
15	What time is it?　Grammar	UNIT 5 PAGES 30–35
16	What time is it?　Speaking	UNIT 5 PAGES 30–35
17	I ride my bike to school.	UNIT 6 PAGES 36–41
18	I ride my bike to school.　Grammar	UNIT 6 PAGES 36–41
19	I ride my bike to school.　Speaking	UNIT 6 PAGES 36–41
20	Does it have a view?	UNIT 7 PAGES 44–49
21	Does it have a view?　Grammar	UNIT 7 PAGES 44–49
22	Does it have a view?　Speaking	UNIT 7 PAGES 44–49
23	Where do you work?	UNIT 8 PAGES 50–55
24	Where do you work?　Grammar	UNIT 8 PAGES 50–55
25	Where do you work?　Speaking	UNIT 8 PAGES 50–55
26	保育場面の英語とコミュニケーション	配布プリント
27	保育場面の英語とコミュニケーション	配布プリント
28	保育場面の英語とコミュニケーション	配布プリント
29	保育場面の英語とコミュニケーション	配布プリント
30	洋画鑑賞	まとめ解説

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	健康科学				
担当教員	鈴木　和子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	１５時間
授業概要、目的、授業の進め方	日常生活においては、テレビ番組、健康雑誌、健康器具などで健康に関する情報があふれており、私たち国民の関心の深さをうかがうことができる。このような状況の中、高齢化社会を迎えているわが国において、個人の価値観や健康のとらえ方も多様化している。本講義では、観客的に状況を分析し、科学的な健康づくりを学ぶことにより、自己の健康・体力づくりができるようになることを目的とする。 （授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	自己の体力増進や健康管理ができるとともに、自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。 運動の基礎理論および運動処方を知ることにより、自ら健康な生活を送ることができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	健康な生活設計　自己の健康管理について、喫煙・飲酒が及ぼす身体影響を考える	パワーポイント
2	運動の基礎理論　トレーニング方法及び現代人の運動不足と健康管理について学ぶ	パワーポイント
3	運動生理学　運動が身体に及ぼす影響、運動と呼吸、運動と筋肉、運動と神経についての知識を高める	パワーポイント
4	救命救急　救急処置についての知識と対処法、ＡＥＤの取扱い方を学ぶ	パワーポイント
5	運動処方①　運動処方の内容について学ぶとともに、運動場面で多発している熱中症の対処法を学ぶ	パワーポイント
6	運動処方②　ウォーミングアップとクーリングダウンについて学ぶ	パワーポイント
7	健康日本21　「健康日本21」から自己の健康への課題を探る 生活と運動　自己のライフスタイルでの健康・体力づくりを	パワーポイント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	スポーツ（実技）				
担当教員	鈴木　和子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	各種スポーツを仲間とともに体験し、技能の上達を図りスポーツの楽しさを味わう。仲間と身体活動を行う中で、自己の体力・健康の保持増進を図る。将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。 【集中合宿】（授業方法：実技）				
学習目標（到達目標）	バレーボール・バドミントン・バスケットボール・卓球・ニュースポーツなどを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ガイダンス	
2	バレーボール①基本練習	胎内自然の家および周辺体育館での実技
3	バレーボール②応用練習	胎内自然の家および周辺体育館での実技
4	バレーボール③ゲーム・審判	胎内自然の家および周辺体育館での実技
5	体つくり運動、エアロビクス運動、ダンス	胎内自然の家および周辺体育館での実技
6	バドミントン①基本練習	胎内自然の家および周辺体育館での実技
7	バドミントン②シングルスのゲーム	胎内自然の家および周辺体育館での実技
8	バドミントン③ダブルスのゲーム	胎内自然の家および周辺体育館での実技
9	バスケットボール①基本練習・応用練習	胎内自然の家および周辺体育館での実技
10	バスケットボール②ゲーム・審判	胎内自然の家および周辺体育館での実技
11	卓球①基本練習	胎内自然の家および周辺体育館での実技
12	卓球②シングルスのゲーム	胎内自然の家および周辺体育館での実技
13	卓球③ダブルスのゲーム	胎内自然の家および周辺体育館での実技
14	ニュースポーツ学ぶ（ティーボールなど）	胎内自然の家および周辺体育館での実技
15	ウォーキングとその効果について	胎内自然の家および周辺体育館での実技

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	保育原理				
担当教員	渡辺　久美子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	1．保育の意義及び目的について理解する。 2．保育に関する法令及び制度を理解する。 3．保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4．保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5．保育の現状と課題について理解する。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	保育の意義と目的、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育におけるさまざまな課題に関しての認識を深める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	保育所保育指針　平成29年告示　【フレーベル館】　保育所保育指針解説書　【フレーベル館】 保育用語辞典　第８版　【ミネルヴァ書房】「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」【フレーベル館】				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	保育とは何か(1)　・保育の意義と目的	保育所保育指針解説書　第１章
2	保育とは何か(2)　①子どもの最善の利益を考慮した保育　②保護者との協働	保育所保育指針解説書　第１章
3	保育とは何か(3)　①保育の社会的意義　②保育所保育と家庭的保育	保育所保育指針解説書　第１章
4	保育所保育指針における保育の基本(1)　①保育の目標と方法　②養護と教育の一体性	保育所保育指針解説書　保育用語辞典　プリント
5	保育所保育指針における保育の基本(2)　①環境による保育　②発達過程に応じた保育	保育所保育指針解説書　保育用語辞典　プリント
6	保育所保育指針における保育の基本(3)　①子どもの健康と安全と保育計画　②保護者に対する支援	保育所保育指針解説書　保育用語辞典　プリント
7	保育の質を高めるための方法(1)　・望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う	保育所保育指針解説書　保育用語辞典　プリント
8	保育の質を高めるための方法(2)　・生活と遊びを通して総合的に行う保育	保育所保育指針解説書　保育用語辞典　プリント
9	保育の質を高めるための方法(3)　・保育における個と集団への配慮	保育所保育指針解説書　保育用語辞典　プリント
10	保育の思想と歴史的変遷(1)　・欧米の保育思想の展開と保育施設の発展	プリント
11	保育の思想と歴史的変遷(2)　・わが国における保育の歴史的変遷	プリント
12	保育の制度(1)　①保育所について　②幼稚園について	DVD　プリント
13	保育の制度(2)　①認定こども園について　②家庭的保育事業について	プリント
14	保育の現状と課題(1)　・日本の保育の現状と課題	プリント
15	保育の現状と課題(2)　・諸外国の保育の現状と課題	プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育園園長としての勤務経験から保育の定義から実際に求めらる内容、課題について、新保育所保育指針をもとに教授する。

科目名	教育原理				
担当教員	稲垣　孝		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶことにより、どのように教育及び学校が営まれ、変遷してきたかを理解する。また、現代の学校教育に関する社会的及び制度的な仕組みを学ぶことにより、学校と地域の連携及び学校安全に関する意義や必要性を理解する。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	教育の課題と可能性についての理解を深めること及び学校教育に関する社会的、制度的事項を理解し、地域との連携並びに学校安全に関する理解を深めることを目標とする。 レポート：レポート作成を通じて教育原理に関する知識を習得・整理するとともに自身の意見を考えることができる。 科目試験：教育原理に関する体系的な知識を習得しており、それに対する自身の意見を持ち、文章で表現することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	教育、教育原理の意義・目的・特性とこども家庭福祉等との関連性	パワーポイント
2	世界の教育思想①ソクラテス～ルソーの思想・実践	パワーポイント
3	世界の教育思想②ヘルバルト～デューイの思想・実践	パワーポイント
4	日本の教育思想	パワーポイント
5	子どもの発達と教育	パワーポイント
6	子どもの権利	パワーポイント
7	制度から見る保育所、幼稚園、認定こども園	パワーポイント
8	内容から見る保育所、幼稚園、認定こども園	パワーポイント
9	世界における教育の歴史的変遷	パワーポイント
10	日本における教育の歴史的変遷	パワーポイント
11	公教育制度、義務教育制度	パワーポイント
12	教師という仕事、教授法	パワーポイント
13	教育における今日的課題①学習指導要領の改訂に伴う幼児教育の変化	パワーポイント
14	教育における今日的課題②危機・安全管理カリキュラム、アクティブラーニング	パワーポイント
15	教育における今日的課題③学校外との連携	パワーポイント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	こども家庭福祉				
担当教員	坂井　摂子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	望ましい保育者となるために、子ども家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。併せて、子どもの人権に目を向けながら子ども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）　　教材プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷	教員作成　プリント
2	現代社会と子ども家庭福祉：少子高齢化、家族形態の変化、相対的貧困、食文化	DVD　プリント
3	子どもの権利－子ども観、人権擁護の歴史的変遷、児童の権利に関する条約	プリント
4	子どもの人権擁護と現代社会における課題	プリント
5	子ども家庭福祉の制度と法体系および実施体系	プリント
6	児童福祉施設と子ども家庭福祉の専門職・実施者	プリント
7	少子化と地域子育て支援	プリント
8	母子保健と子どもの健全育成	プリント
9	多様な保育ニーズへの対応	プリント
10	子ども虐待・ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）とその防止	DVD　プリント
11	社会的養護	プリント
12	障害のある子どもへの対応	DVD　プリント
13	少年非行等への対応	DVD　プリント
14	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応	DVD　プリント
15	子ども家庭福祉の動向と展望	プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	社会福祉論				
担当教員	阿部　春江		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史的変遷、その運営の制度や技術について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイントスライド　プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	社会福祉の理念…共生社会を目指して	パワーポイント　プリント
2	社会福祉の歴史的変遷…基礎構造改革への流れ	パワーポイント　プリント
3	子ども家庭支援と社会福祉…日本で里親が根付かないのは	パワーポイント　プリント
4	社会福祉の制度と法体系…社会福祉事業法から社会福祉法へ	パワーポイント　プリント
5	社会福祉施設	パワーポイント　プリント
6	社会福祉の専門職	パワーポイント　プリント
7	社会保障と関連制度…子どもの貧困をどう守る	パワーポイント　プリント
8	相談援助の理念…当事者主体の推進	パワーポイント　プリント
9	相談援助の対象者…虐待をする大人、された子ども	パワーポイント　プリント
10	相談援助の方法…コーチング理論はどうして生まれたか	パワーポイント　プリント
11	相談援助の過程…評価への道のり	パワーポイント　プリント
12	情報提供・個人情報保護・第３者評価・苦情解決	パワーポイント　プリント
13	諸外国の動向…施設ゼロ宣言をした国	パワーポイント　プリント
14	在宅福祉、地域福祉の推進…ボランティア社会	パワーポイント　プリント
15	今後の福祉の在り方…福祉コミュニティづくり	パワーポイント　プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	こども家庭支援論				
担当教員	平野　雅子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	子ども家庭支援の意義とその役割について理解を深めることに加え、子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。多様な子育て家庭のニーズの把握と支援体制を理解する。また、特別なニーズへの対応と支援における関係機関等の連携など多様な支援展開について理解する。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する。特別なニーズをもつ子育て家庭に対する支援の特性を理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイントスライド　プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	家族・家庭・世帯とは	パワーポイントスライド　プリント
2	家族と家庭の形態と機能	パワーポイントスライド　プリント
3	ライフステージ	パワーポイントスライド　プリント
4	社会環境の変化と現代の家庭	パワーポイントスライド　プリント
5	現代の家庭と子育てをめぐる問題	パワーポイントスライド　プリント　DVD
6	要保護家庭の問題	パワーポイントスライド　プリント
7	子育て家庭を支援する法・制度	パワーポイントスライド　プリント
8	子育て家庭を支援する社会資源	パワーポイントスライド　プリント
9	新たな子育て支援制度	パワーポイントスライド　プリント
10	子育て家庭支援の体系	パワーポイントスライド　プリント
11	保育者による家庭支援の原理	パワーポイントスライド　プリント
12	保育所における子育て家庭支援	パワーポイントスライド　プリント　DVD
13	地域における子育て家庭支援	パワーポイントスライド　プリント
14	子ども家庭福祉の諸相	パワーポイントスライド　プリント
15	要保護児童とその家庭に対する支援	パワーポイントスライド　プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育士としての保育所勤務経験での保育所での園児家庭の支援、地域の子育て家庭の支援について教授する。

科目名	社会的養護Ⅰ				
担当教員	徳田　昭彦		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	1．☒代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2．☒どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本についてりかいする 3．☒会的養護の制度や実施体系等について理解する 4．☒会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する 5．☒会的養護の現状と課題について理解する　（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	社会的養護の体制と、それに大きな影響を与えた子どもの権利条約について理解できている。今、実際に起こっている子どもの貧困、虐待と里親制度の課題について説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	社会的養護の理念と概念	作成プリント
2	社会的養護の歴史的変遷	作成プリント
3	子どもの人権擁護と社会的養護	作成プリント
4	社会的養護の基本原則	作成プリント
5	社会的養護における保育士等の倫理と責任	作成プリント
6	社会的養護の制度と法体系	作成プリント
7	社会的養護の仕組みと実施体系	作成プリント
8	社会的養護の対象	作成プリント
9	家庭養護と施設養護	作成プリント
10	社会的養護に関わる専門職	作成プリント
11	社会的養護に関する社会的状況	作成プリント
12	施設等の運営管理	作成プリント
13	被措置児童等の虐待防止	作成プリント
14	社会的養護と地域福祉	作成プリント
15	保育現場における社会的養護の現状と課題	作成プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	児童福祉施設施設長経験から、社会的養護の内容と保育士の役割について教授する。

科目名	教職論				
担当教員	鈴木　和子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	望ましい教職者（保育者）とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、教職者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、教職の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、教職者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである。理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた教職理論の理解を深め、教職者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。 （授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	時代の変化に対応した教員養成の在り方を理解し、教員に求められる専門性について、論じることができる。 教職者に求められる資質能力や教職の在り方などの基本的事項について理解している。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	教職（保育）の意義・定義・教職（保育）者とは何か	配布プリント
2	教職（保育）者に求められる資質・能力	配布プリント
3	教員（保育者）養成の歴史	配布プリント
4	教職（保育）者資質と役割	配布プリント
5	指導計画（保育のねらい・内容）	配布プリント
6	教職（保育）者の仕事・義務・研修	配布プリント
7	教職（保育）者の職場環境	配布プリント
8	教職者の制度的な位置付け	配布プリント
9	教職者の任用と服務	配布プリント
10	教育（保育）現場におけるこどもとの関わり（あそび・環境）	配布プリント
11	教育（保育）現場における家庭との連携・支援、地域との連携	配布プリント
12	教職（保育）観の変遷と教員（保育者）の役割	配布プリント
13	職員間の連携、保育園、幼稚園、小学校との連携（接続カリキュラム）	配布プリント
14	今日的な教育課題に対応するために（「チーム学校」等）	配布プリント
15	よい教職者（保育者）になるために（教育実習への心構え）	配布プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	発達心理学				
担当教員	西山　大史		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	実際の保育活動や、対人支援活動の中で生かせる様な知識を身につけることができる。特に、発達心理学の基礎的な理論および保育活動に重要な乳幼児期について重点的に学ぶ。加えて、発達は生涯を通じて起こるものであることを理解し、生涯発達についての概観的知識を得る。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	発達心理学にかかわる基本的な用語を理解し、説明できる。特に乳幼児期の発達段階について詳細に分類し、それぞれの時期の特徴について説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	配布プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	発達心理学の定義、発達心理学で学ぶ内容の概要	配布プリント
2	発達はどのように起こるか：遺伝説と環境説、それらの複合説について	配布プリント
3	動物における生理学的欲求とは異なる社会的行動について	配布プリント
4	ボウルビーによる愛着理論と、愛着の発達	配布プリント
5	ストレンジシチュエーション法と、愛着理論の保育への活用	配布プリント
6	乳児期の発達：反射と表象の形成（ピアジェの感覚運動期を中心に）	配布プリント
7	乳幼児期の発達：表象の発達と、認知発達の特性（ピアジェの前操作期を中心に）	配布プリント
8	幼児期から児童期の発達：運動・言葉・情緒・遊びの発達、自己認識や社会性の拡張	配布プリント
9	児童期・青年期の発達：社会性の拡張と、アイデンティティの確立	配布プリント
10	成人期の発達：親密性の確立と、現在の社会から見る青年期の課題・人間関係の課題	配布プリント
11	壮年期・老年期の発達：人格の完成と、死の受容	配布プリント
12	ハヴィガーストおよびエリクソンの発達課題から見る生涯発達心理学	配布プリント
13	発達心理学と教育学の関連：児童の発見から学校への適応まで	配布プリント
14	保育に活用できる発達心理学：発達課題、発達段階の理解による保育計画	配布プリント
15	自身の学びに活用できる発達心理学：生涯発達という観点から見て、自分自身の発達を捉える	配布プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	こどもの発達と家庭支援				
担当教員	堀井　愛子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について学ぶ。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	生涯発達の観点から発達のプロセスや初期発達の重要性について理解し、保育との関連性について考え、子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について理解する。子育て家庭に関する現状と課題を把握し、子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	子ども家庭支援の心理学【中央法規】				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	乳児期の発達	パワーポイント
2	幼児期の発達	パワーポイント
3	学童期の発達	パワーポイント
4	青年期の発達	パワーポイント
5	成人期・中年期の発達	パワーポイント
6	老年期の発達	パワーポイント
7	家族・家庭の意義と機能	パワーポイント
8	親子関係・家族関係の理解	パワーポイント
9	子育ての経験と親としての育ち	パワーポイント
10	子育てを取り巻く社会的状況	パワーポイント
11	ライフコースと仕事・子育て	パワーポイント
12	多様な家庭とその理解	パワーポイント
13	特別な配慮を要する家庭	パワーポイント
14	子どもの生活・生育環境とその影響	パワーポイント
15	子どもの心の健康に関わる問題	パワーポイント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	こどもの理解と援助				
担当教員	平野　雅子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	子ども理解を深めるための様々な視点や方法を学ぶとともに、それを踏まえた上での援助の考え方や方法について学ぶ。（授業方法：演習 ）				
学習目標（到達目標）	1．保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2．子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3．子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4．子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「保育所保育指針解説」【フレーベル館】 パワーポイントスライド				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	保育における子どもの理解の意義	パワーポイントスライド
2	子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	パワーポイントスライド
3	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	パワーポイントスライド
4	子どもの生活や遊び	パワーポイントスライド　DVD
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	パワーポイントスライド
6	子ども相互の関わりと関係づくり	パワーポイントスライド　DVD
7	子どもの集団における経験と育ち	パワーポイントスライド　DVD
8	子どもの葛藤やつまずき	パワーポイントスライド　DVD
9	保育の環境の理解と構成	パワーポイントスライド
10	環境の変化や移行	パワーポイントスライド
11	子どもを理解する方法　（1）観察（2）記録	ワークシート　グループワーク　ロールプレイ
12	子どもを理解する方法　（1）省察・評価（2）職員間の対話 （3）保護者との情報の共有	ワークシート　グループワーク　ロールプレイ
13	発達の課題に応じた援助と関わり	パワーポイントスライド
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	パワーポイントスライド　DVD
15	発達の連続性と就学への支援	パワーポイントスライド

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育士としての保育所勤務経験での保育所での園児家庭の支援、地域の子育て家庭の支援について教授する。

科目名	教育心理学				
担当教員	三條　悠		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	教育心理学における発達と学習の領域を中心に、「教えること」「育てること」に関する心理学的な考え方を紹介する。「発達」では、幼児期までの発達的特徴や遊びを通した変化について、「学習」では、動物実験を基礎とした学習理論や、実際の教育現場での指導・評価方法について解説する。 （授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	教育心理学における動機づけのしくみを理解し、教育・保育場面での活用方法を説明することができる。 教育心理学における基礎的知識を理解し、概説することができる。 教育・保育場面の様々な事象を心理学的に理解し、教育・保育実践に応用することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	教育心理学を学ぶ意義	パワーポイント
2	発達の考え方とその理解	パワーポイント
3	学習の仕組み	パワーポイント
4	主体的な学習を支える「やる気」	パワーポイント
5	集団での学習とその評価	パワーポイント
6	動機付けからみる発見学習の仕組み	パワーポイント
7	教育心理学に基づく保育実践	パワーポイント
8	発達課題に応じたかかわり	パワーポイント
9	子どもから大人への思考様式の変化	パワーポイント
10	学びを支える記憶	パワーポイント
11	子どもの学びの姿	パワーポイント
12	子どものやる気を引き出す指導の在り方	パワーポイント
13	子どもの遊びの重要性	パワーポイント
14	子どもと道徳	パワーポイント
15	教育心理学を用いた環境づくり	パワーポイント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	教育課程論				
担当教員	坂井　摂子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	幼児、こどもを育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手立て（方針）、どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。幼児教育・保育における教育課程・保育課程の意義と役割を明らかにする。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷について理解できる。教育課程・保育課程を編成するにあたっての留意事項及び評価・改善の方法について理解できる。教育課程・保育課程の編成の手順について理解できる。幼児教育の内容の充実と質の向上に資する教育課程・保育課程について理解できる。指導計画の種類や指導計画を作成する上での留意点について理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作パワーポイント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	教育課程・保育課程編成の基本的な考え方、意義と必要性	パワーポイント
2	カリキュラムの基礎理論	パワーポイント
3	日本における教育課程・各国の教育課程の変遷	パワーポイント
4	時代の変化に対応した幼稚園の教育課程の在り方、編成と評価	パワーポイント
5	教育課程の法と行政	パワーポイント
6	学習指導要領の変遷とその特色	パワーポイント
7	園生活と長期・短期の指導計画	パワーポイント
8	教育課程・保育課程編成の実際	パワーポイント
9	保育の基本と実践（記録及び省察による教育・保育の質向上）	パワーポイント
10	学びをつなぐ幼・保・小連携カリキュラム	パワーポイント
11	明治・大正・昭和前期、後期の保育の歴史	パワーポイント
12	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性	パワーポイント
13	幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷	パワーポイント
14	教育課程をめぐる諸問題	パワーポイント
15	信頼される園づくりと学校評議員制度	パワーポイント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	保育内容総論				
担当教員	中山　まり		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	レポート：乳幼児期にふさわしい生活の展開について保育内容を総合的に捉えながら論じることができる。 科目試験：保育内容の構造を理解し、保育を展開するにあたり必要となる指導計画や現代的な課題への理解、子どもの遊びと育ちについて論じることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	保育所保育指針　自作プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	保育の全体的構造　①育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	自作プリント　保育所保育指針
2	保育の全体的構造　②領域の考え方と乳児保育の領域	保育所保育指針
3	保育内容の歴史的変遷　①変遷にみる特徴	自作プリント
4	保育内容の歴史的変遷　②変遷にみる課題	自作プリント
5	養護と教育の一体的展開　養護的なかかわりと教育的なかかわり	保育所保育指針　自作プリント
6	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容　①乳幼児にとっての園行事の意味と在り方	保育所保育指針　自作プリント
7	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容　②保幼小の円滑な連携	保育所保育指針　自作プリント
8	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開　①環境を通して行う保育	保育所保育指針　自作プリント
9	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開　②遊びによる総合的な保育	保育所保育指針　自作プリント
10	全体的な計画の作成と指導計画の作成　①全体的な計画の作成	保育所保育指針　自作プリント
11	全体的な計画の作成と指導計画の作成　②指導計画の作成手順と配慮	保育所保育指針　自作プリント
12	保育の評価と保育の記録　①幼児理解に基づく評価	保育所保育指針　自作プリント
13	保育の評価と保育の記録　②観察記録を書く意味と幼児理解	保育所保育指針　自作プリント
14	保育内容の現代的課題について　①子育て支援	保育所保育指針　自作プリント
15	保育内容の現代的課題について　②多文化共生保育	保育所保育指針　自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育士経験から保育の内容において5領域を横断的に考え、子ども達への保育・教育に活かす知識、技術を教授する。

t

科目名	こどもの指導法「人間関係」				
担当教員	荒井　和美		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	こどもたちを取り巻く「人間関係」のあり方や「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。 また、保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を築いていくのか、こども－養育者、こども－保育者、保育者－養育者、さらには保育者－保育者という様々な関係について考察していく。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	1．保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いについて説明できる。2．人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。3．養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）　パワーポイント　DVD				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	領域「人間関係」 ・ねらいと内容及びその取扱い　・保育者としての役割	パワーポイント
2	領域「人間関係」 ・ねらいと内容及びその取扱い　・保育者としての役割	パワーポイント
3	保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） ・保育構想と指導案（模擬保育）	パワーポイント
4	保育者としての環境作りと評価 ・こどもの人間関係を見つめる目と環境設定（情報機器含む） ・保育構想と指導案（模擬保育）	パワーポイント
5	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① ・対人意識、自己概念の発達　・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫	パワーポイント
6	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助① ・対人意識、自己概念の発達　・自己理解と他者理解を支える保育者の工夫	パワーポイント
7	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② ・個と集団の育ちの姿　・こどもの心の拠り所である保育者の工夫	パワーポイント
8	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助② ・個と集団の育ちの姿　・こどもの心の拠り所である保育者の工夫	パワーポイント
9	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫	パワーポイント
10	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助③ ・人とのかかわりとこどもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫 ・集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫	パワーポイント
11	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点	パワーポイント
12	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助④ ・こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫 ・こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点	パワーポイント
13	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）	パワーポイント
14	こどもの人間関係の育ちと保育者との役割と援助⑤ ・こども同士を結び付ける保育者の遊びの役割 ・こども同士を結び付ける遊びの保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）	パワーポイント
15	地域の人々との多様なかかわりを導く保育計画及び小学校との交流を導く保育計画（情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育）	パワーポイント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	幼稚園教諭としての幼稚園勤務経験を活かして、こどもを取り巻く領域の人間関係について、演習を通して教授する。

科目名	こどもの指導法「言葉」				
担当教員	須藤　明美		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探求する。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	1．☒幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。 2．☒ども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理解できるようになる。 3．☒幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲に役割が認識できるようになる。 4．こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。 5．言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）　パワーポイント　創作用教材 「保育所保育指針解説」（フレーベル館）　自作プリント　絵本カード　学生持参絵本				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	幼児教育と言葉	パワーポイント　DVD
2	幼児教育と言葉	パワーポイント
3	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価	パワーポイント
4	乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価	パワーポイント
5	言葉を豊かに育む活動（１）言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法	自作プリント
6	言葉を豊かに育む活動（２）わらべうた、なぞなぞ、しりとり、ごっこ遊び、劇遊び等、言葉遊び	自作プリント
7	言葉を豊かに育む活動（３）言葉から文字へ 、文字による環境	自作プリント
8	言葉を豊かに育む活動（４）カルタ・双六・絵カード等	制作材料
9	保育者と言葉のあり方　言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援	自作プリント
10	外国のこどもとの対応	自作プリント
11	言語教材としての絵本の意義	絵本カード　絵本
12	言語教材としての絵本の意義	絵本カード　絵本
13	絵本、お話等の指導法	絵本カード　絵本
14	絵本、お話等の実践	絵本カード　絵本
15	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携	自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育園園長の経験から、乳幼児を取り巻く領域言葉についてを保育実践を含めて教授する。

科目名	こどもの指導法「リズム表現」				
担当教員	廣川　奈津子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せないほど密接な関係にある。本授業では幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を音楽表現的領域、身体表現領域、言語表現領域、造形表現的領域から見出し、保育指導法を修得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識も合わせて習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	撮影、確認用　個人もちタブレット　　音楽機器　楽器				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	古代から近代における幼児教育の歴史的系譜をもとに「表現」についての洞察	配布プリント
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「表現」の指導において求められる表現の捉	配布プリント
3	歩く、走る、スキップ、ギャロップなどの基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点	実技➡解説
4	幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解	実技➡解説
5	幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践	実技➡解説
6	日常生活が表現につながる可能性に気づき、観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践	実技➡解説
7	童謡やわらべうたについてタブレット等の情報機器や動作カードを活用した多様な振付の実践	実技➡解説
8	幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践	実技➡解説
9	楽器の取り扱いと身近な素材を使ったオリジナル楽器の製作と活用	実技➡解説
10	指導案作成の基礎を理解し、オリジナル楽器を使った指導案の作成	実技➡解説
11	オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について	実技➡解説
12	領域「表現」と小学校教科等とのつながり	実技➡解説
13	絵本のストーリーを取り入れた模擬保育の実践	実技➡解説
14	保育構想発展のための相互発表による振り返り	実技➡解説
15	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	実技➡解説

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	こどもの指導法「音楽表現」				
担当教員	藤田　ゆかり		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	４５時間
授業概要、目的、授業の進め方	領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識を習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解	プリント
2	表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践	ピアノ演奏実践
3	乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解	ピアノ演奏実践
4	表現活動における伴奏の方法と実践	ピアノ演奏実践
5	映像視聴による身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法	DVD
6	サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法	DVD
7	声の仕組み、「歌う」表現活動の理解	楽譜　歌唱実践
8	乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法	楽譜　ピアノ演奏実践
9	映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	DVD
10	乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法	パワーポイント
11	映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践	DVD
12	乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法	楽譜
13	「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践	楽譜　ピアノ演奏実践
14	「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法	楽譜　ピアノ演奏実践
15	他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践	楽譜　ピアノ演奏実践
16	他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践	楽譜　ピアノ演奏実践
17	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	楽譜　ピアノ演奏実践
18	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	楽譜　ピアノ演奏実践
19	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	楽譜　ピアノ演奏実践
20	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	楽譜　ピアノ演奏実践
21	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	楽譜　ピアノ演奏実践
22	模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践	楽譜　ピアノ演奏実践

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	ピアノ教室講師として培った指導力を活かして初心者も含む学生に対してピアノ演奏技術を教えている。

科目名	こどもと造形				
担当教員	北上　あつ子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要となる知識や技術を身につける。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	1.乳幼児造形教育の指導・援助者として必要となる形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 2.えがく領域、つくる領域、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 3.教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スケッチブック　その他造形教材　プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	幼児造形教育の重要性と研究の視点について	プリント
2	幼児造形（表現）の特徴・領域・道筋について	プリント
3	えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）	実技
4	えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）	実技
5	えがく領域に伴う製作Ⅰ（えがく活動における指導・援助と実際）	実技
6	つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）	実技
7	つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）	実技
8	つくる領域に伴う製作Ⅱ（つくる活動における指導・援助と実際）	実技
9	造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）	実技
10	造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）	実技
11	造形あそびの領域に伴う製作Ⅲ（造形遊びにおける指導・援助と実際）	実技
12	作品の研究及び発表	実技
13	作品の研究及び発表	実技
14	幼児造形教育の課題について	プリント
15	まとめ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	乳幼児保育Ⅰ				
担当教員	平野　雅子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	乳幼児保育について、発達段階ごとの特徴と具体的な援助について理解できる。 乳幼児の発達の法則、発達的特徴、及び乳幼児の援助について具体的に理解できる。 乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作プリント　保育所保育指針解説（フレーベル館）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	乳幼児保育の意義・概念と歴史的変遷	プリント
2	乳幼児保育の一般化への経緯	プリント
3	乳幼児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	保育所保育指針解説書
4	保育所における乳幼児保育	保育所保育指針解説書
5	保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳幼児保育	保育所保育指針解説書
6	家庭的保育等における乳幼児保育	保育所保育指針解説書
7	3歳未満児の生活と環境	保育所保育指針解説書
8	3歳未満児の遊びと環境	保育所保育指針解説書
9	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	保育所保育指針解説書
10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり	保育所保育指針解説書
11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	保育所保育指針解説書
12	乳幼児保育における計画・記録・評価とその意義	保育所保育指針解説書
13	職員間の連携・協働	保育所保育指針解説書
14	保護者との連携・協働	保育所保育指針解説書
15	乳幼児保育と子育て支援	保育所保育指針解説書

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育園主任の経験から、乳幼児の発達の実際や乳幼児保育の実技に関しての知識・技術および保育計画についてを教授する。

科目名	障害児保育				
担当教員	能登　宏		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	６０時間
授業概要、目的、授業の進め方	1．図害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する 2．図々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する 3．図害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する 4．図がい児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する 5．図害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する　（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	発達障がいを理解し、統合保育（教育）について自分の考えを持つことができる。 障がい者福祉の歴史を理解し、地域の中で障がい児を支援するネットワークを理解することができる。 障がいを正しく理解し、コミュニケーション、リーダーシップなど、障がい児保育をするうえで必要な力を身に着ける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント　自作プリント　障害児保育～子どもとともに成長する保育者を目指して～【萌文書林】				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	障がいの概念と障がい児保育の歴史的変遷	テキスト　第1部　第1章
2	障がいのある子どもとの統合保育と地域社会への参加	テキスト　第1部　第2章
3	差別解消と合理的配慮	パワーポイント　プリント
4	差別解消と合理的配慮	パワーポイント　プリント
5	差別解消と合理的配慮	パワーポイント　プリント
6	身体障がい児の理解と支援	テキスト　第2部
7	身体障がい児の理解と支援	テキスト　第2部
8	知的、発達障がい児の理解と支援	テキスト　第2部
9	知的、発達障がい児の理解と支援	テキスト　第2部
10	その他の障がい児の理解と支援	テキスト　第2部
11	その他の障がい児の理解と支援	テキスト　第2部
12	支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、子ども同士）	テキスト　第3部
13	支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、子ども同士）	テキスト　第3部
14	支援体制の構築（職員間、家族、地域社会、子ども同士）	テキスト　第3部
15	障がい児のコミュニケーション	DVD
16	障がい児のコミュニケーション	プリント
17	障がい児と遊ぶ	DVD
18	障がい児と遊ぶ	プリント
19	障がい児と遊ぶ	プリント
20	障がい児と遊ぶ	プリント
21	障がい児保育の健康と安全	テキスト　第4部
22	障がい児保育の健康と安全	テキスト　第4部
23	統合保育の活動	テキスト　第４部
24	統合保育の活動	グループ発表
25	統合保育の活動	グループ発表
26	統合保育の活動	グループ発表
27	統合保育の活動	グループ発表
28	統合保育の活動	グループ発表
29	統合保育の活動	グループ発表
30	障がい児保育の現状と課題	テキスト　第5部

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	言葉とこどもの文化				
担当教員	平野　雅子		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	１５時間
授業概要、目的、授業の進め方	言葉の機能を理解し、絵本・紙芝居・おはなし等、子どもが言葉を育むことに役立つ言語教材である児童文化財への専門的知識を深めると同時に、児童文化財の研究をとおして、その利用の仕方について理解する。さらに学童期へ繋がる言葉について理解を深める。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	具体的な児童文化財の分析と考察を多角的にすることができる。幼児期のことばの特徴について理解し、言語教材としての児童文化財の具体的な利用方法を述べることが出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ことばの機能と言葉の発達	パワーポイント
2	領域〈言葉〉のねらい及び内容	パワーポイント
3	ことばを育てる児童文化財①　絵本	グループ内実践
4	ことばを育てる児童文化財①　絵本	グループ内実践
5	ことばを育てる児童文化財①　絵本	グループ内実践
6	ことばを育てる児童文化財①　絵本	グループ内実践
7	ことばを育てる児童文化財②　紙芝居　おはなし	グループ内実践
8	ことばを育てる児童文化財②　紙芝居　おはなし	グループ内実践
9	ことばを育てる児童文化財③　ペープサート、シアター	制作
10	ことばを育てる児童文化財③　ペープサート、シアター	制作
11	ことばを育てる児童文化財③　ペープサート、シアター	制作
12	ことばを育てる児童文化財④　わらべうた、ことばあそび	自作プリント　CD
13	ことばを育てる児童文化財④　わらべうた、ことばあそび	自作プリント　CD
14	幼保小連携について	パワーポイント
15	まとめ	

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育士としての保育所勤務経験での保育所での園児家庭の支援、地域の子育て家庭の支援について教授する。

科目名	造形表現論				
担当教員	坂井　邦晃		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	１５時間
授業概要、目的、授業の進め方	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の理論をもとに、えがく表現、つくる表現そして造形あそびの領域と技法について、また、それに伴った材料、用具の特性と利用について理解していく。さらに美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題を学ぶ。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	レポート：乳幼児における造形教育の指導・援助者として必要となる基礎的知識及び技能についてテーマ毎に課題を設定し、形や色や質感等について理解するとともに、保育の教材となる材料や用具の取り扱いについて学習する。 科目試験：保育の内容を踏まえた造形教育における基礎的知識と、造形活動の際に取り扱う保育教材や用具の使用方法について確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領における「表現」領域を踏まえた幼児造形表現の学習	自作プリント
2	こどもの発達段階とえがく、つくる、造形あそびの造形活動の意義	自作プリント
3	こどもの発達段階を踏まえた、えがく、つくる、造形あそびの特徴と指導、援助、評価	自作プリント
4	えがく活動における形態・色彩の理論　絵画技法、製作内容と材料・用具	自作プリント
5	つくる活動における技法と活用、つくる活動の素材（廃材）、製作内容と材料・用具	自作プリント
6	造形あそびにおける各種表現技法、製作内容と材料・用具	自作プリント
7	実践的な指導法の学習と情報機器及び教材の活用	自作プリント
8	美術の歴史的展開の概説及び乳幼児造形教育の課題とまとめ	自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	表現とこどもの運動				
担当教員	橋本　麻里		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	１５時間
授業概要、目的、授業の進め方	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。 （授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	表現運動における援助者の役割につい理解し、人的環境について説明するとともに、幼児の身体表現活動の留意点について理解し、実践事例をあげて自分の考えを持つことができる。 表現活動は、日常におけるこどもを取り巻く生活環境が大きく関係し、豊かな感性に関連していることを理解するとともに、表現遊びや表現運動が５つの領域に相互に関わり成り立っていることを理解する。また、こども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し、各種の問題に取り組むことができるようにする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	①運動遊びのねらい　②運動遊びの援助について（個別の支援計画等）	自作プリント
2	①身体・形態・機能・こころの発育発達　②こどもと運動	自作プリント
3	①基本運動（歩・走・跳・投・押・引・転・登）②運動表現の要素（調整力：身体認知・空間認識）	自作プリント
4	①調整力中心の体つくり運動　②音・色などの刺激に対応する運動	自作プリント
5	①表現運動実施の教育的意義　②身体表現運動とは	自作プリント
6	①身体表現運動のねらい　②実施上の留意点	自作プリント
7	①年齢別発達における表現遊び　②手遊びとリズム表現	自作プリント
8	安全管理について	自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	音楽表現論				
担当教員	藤田　ゆかり		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	15時間
授業概要、目的、授業の進め方	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもが遊びや生活の中で、子どもの素朴な表現を見出し、受け止め共感することができる保育者としての感性を養う。また、子どもが表現する事の楽しさを生み出す過程を理解し、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的指導法の習得と音楽的知識を身に付ける。さらに家庭及び小学校以降の学びへの接続を理解し、その具体的な方法を習得する。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	感性と表現に関する領域「表現」を理解し、音楽表現指導に関する専門的知識・技能・表現力を身に付ける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程、音楽表現の基礎知識	自作プリント
2	「自然が生み出す音」「目で見える世界に存在する音」を取り入れ、表現する過程の理解	自作プリント
3	日本のこどもの歌と歴史的背景の理解 時代を象徴している童謡などについて、調性感やリズム感	自作プリント
4	領域「表現」と他の領域との関連を考慮した音環境の理解 身体及び言葉の中のリズム、生き物に見られる拍とリズムの理解と	自作プリント
5	保育実践における豊かな表現を引き出す援助(手法)のあり方についての理解	自作プリント
6	部分指導案「身近な音をみつけて遊ぼう」の理解と立案 身近な自然や身の周りの音を様々な組み合わせで表現する方法と実	自作プリント
7	保育の可視化と保育現場に応じた音楽を和音(コード)で表現する方法の理解と実践	自作プリント
8	家庭と園生活における乳幼児の音楽表現活動の繋がり及び小学校に繋がる学びの理解とまとめ	自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はS（100～90点）、A（89～80点）、B（79～70点）、C（69～60点）、D（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずD評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	ピアノ教室講師として培った指導力を活かして初心者も含む学生に対してピアノ演奏技術を教えている。

科目名	こどもと音楽あそびⅠ				
担当教員	梅津　幹子		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	６０時間
授業概要、目的、授業の進め方	子どもと音楽表現の重要性を考え、保育における音楽環境について学ぶ。ピアノを始めとした様々な楽器の奏法を学び、子どもに音楽の楽しさを提供する際の様々な技術を演習を通して身につけていく。 （授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	ヤマハ音楽能力検定　受験　（個人レベルに合わせた級）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	各自用意の楽譜				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	レベルチェック	課題曲
2	ピアノ演奏実践	課題曲
3	ピアノ演奏実践	課題曲
4	ピアノ演奏実践	課題曲
5	ピアノ演奏実践	課題曲
6	ピアノ演奏実践	課題曲
7	ピアノ演奏実践	課題曲
8	ピアノ演奏実践	課題曲
9	ピアノ演奏実践	課題曲
10	ピアノ演奏実践	課題曲
11	ピアノ演奏実践	課題曲
12	ピアノ演奏実践	課題曲
13	ピアノ演奏実践	課題曲
14	ピアノ演奏実践	課題曲
15	ピアノ演奏実践	課題曲
16	ピアノ演奏実践	課題曲
17	ピアノ演奏実践	課題曲
18	ピアノ演奏実践	課題曲
19	ピアノ演奏実践	課題曲
20	ピアノ演奏実践	課題曲
21	ピアノ演奏実践	課題曲
22	ピアノ演奏実践	課題曲
23	ピアノ演奏実践	課題曲
24	ピアノ演奏実践	課題曲
25	ピアノ演奏実践	課題曲
26	ピアノ演奏実践	課題曲
27	ピアノ演奏実践	課題曲
28	ピアノ演奏実践	課題曲
29	ピアノ演奏実践	課題曲
30	ピアノ演奏実践	課題曲

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	人間関係論				
担当教員	山田　裕美		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	１５時間
授業概要、目的、授業の進め方	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	領域「人間関係」の基礎理論を理解し、関係発達論的な視点から論じることができる。 こどもを取り巻く環境の変化について理解し、こどもが人間関係をつむぎながら成長する過程を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	自作プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	領域「人間関係」	自作プリント
2	間関係と取り巻く社会環境①　・少子高齢化　・家族の変化	自作プリント
3	人間関係と取り巻く社会環境②　・身近な環境の変容　・メディアの変化	自作プリント
4	・規範意識と道徳性の芽生え（育ち）　・ルール、決まり事の意味と意義	自作プリント
5	・自立心、協同性の芽生え（育ち）　・自己発揮と自己抑制の芽生え（育ち）	自作プリント
6	・遊びの中で育つ乳児の人間関係　・遊びの中で育つ幼児の人間関係	自作プリント
7	・家庭とのかかわりとこどもの発達　・地域とのかかわりとこどもの発達	自作プリント
8	今日的な人間関係の課題（多様な文化のこどもと気に留めたいこども）	自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育士としての保育所勤務経験を活かして、こどもを取り巻く領域の人間関係について教授する。

科目名	こどもの指導法「造形表現」				
担当教員	坂井　邦晃		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スケッチブック　絵の具セット　造形表現制作素材				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園　教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携（「図画工作」の学習指導要領）	自作プリント
2	造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴	幼児画集
3	こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価	パワーポイント
4	こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価	パワーポイント
5	こどもの発達段階における表現の指導・援助（指導案）と評価	パワーポイント
6	教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）	実技
7	教材研究を伴う製作Ⅰ（えがく）	実技
8	教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）	実技
9	教材研究を伴う製作Ⅱ（つくる）	実技
10	教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）	実技
11	教材研究を伴う製作Ⅲ（造形あそび）	実技
12	実践的な指導法（模擬保育等）の学習　（えがく・つくる・造形あそび）	グループごとの発表
13	実践的な指導法（模擬保育等）の学習　（えがく・つくる・造形あそび）	グループごとの発表
14	えがく、つくる、造形あそびの保育展開（指導法）	自作プリント
15	まとめ	自作プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	保育実習Ⅰ　（保育所）				
担当教員	保育現場保育士		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	９０時間
授業概要、目的、授業の進め方	１．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支 援について総合的に理解する。 ４．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解 する。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する（授業方法：実習）				
学習目標（到達目標）	子どもの保育及び保護者への支 援について総合的に理解する。保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実習日誌				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	実習前オリエンテーション	
2	保育所実習	保育所で１２日間（９０時間以上）の実習
3		
4		
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は保育現場からの評価と実習日誌、事後レポート等を併せて評価 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（100～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	1.現場実習を実施するにあたり、明確な目的、目標を立てること 2．受入施設や企業は多忙な中で協力してくれていることを常に認識し、感謝の気持ちを忘れない 3．社会人としてのマナー、エチケットを遵守し、素直な気持ちで仕事に携わること

実務経験教員の経歴	実習施設の職員が実習生に対しての実習態度、学ぶ姿勢、学習状況においての指導を行う。

科目名	保育実習指導Ⅰ				
担当教員	荒井　和美		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	３０時間
授業概要、目的、授業の進め方	１．保育実習の意義・目的を理解する。 ２．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバ シーの保護と守秘義務等について理解する。 ４．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具 体的に理解する。 ５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後 の学習に向けた課題や目標を明確にする。（授業方法：演習）				
学習目標（到達目標）	実習の流れ・心得を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実習日誌　配布プリント				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	実習の意義・目的を理解する	配布プリント
2	保育所とは何か、その現状と課題	配布プリント
3	新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領	配布プリント
4	保育所の職場構成と連携	配布プリント
5	社会人のマナー　ほうれんそう（報告・連絡・相談）の重要性	配布プリント
6	乳幼児の年齢別発達の特徴	配布プリント
7	緊急時の対応（ケガ・地震・火事等）、事故予防について	配布プリント
8	実習の種類（参観実習・参加実習・責任実習）とは何か	配布プリント
9	実習日誌の書き方・保育指導案の立て方	配布プリント
10	保育技術の利用　絵本の読み方・手遊びの仕方・ピアノ等	配布プリント
11	児童福祉施設の種別および特徴	配布プリント
12	社会的養護の原理・原則および支援について	配布プリント
13	プライバシーの保護と守秘義務	配布プリント
14	児童福祉施設の他職種および他機関との連携の仕方	配布プリント
15	実習の総括と自己評価　新たな課題や自己目標の明確化	配布プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	保育士資格での保育現場の勤務経験から、最終経験となる保育実習Ⅱにおいて得る保育者としての実践力の準備段階の知識・技術を教授する。

科目名	社会人常識とマナー				
担当教員	山田　裕美		実務授業の有無	×	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	社会人常識マナー検定対策学習を通し、社会人としてのマナー及び常識を身につけ、実践の場（実習および就職活動や将来の職場）で応用できるようになる。（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	社会人常識マナー検定３級合格（合格率８５％）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	社会人常識マナー検定テキスト２・3級				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	接遇マナーの授業はなぜ必要？（職場のチームワークとマナー）挨拶（会釈・敬礼・最敬礼）検定の問題ってどんなもの？	『福祉施設職員のチームワークとマナー』ビデオ視聴　模擬問題
2	会社組織について　組織と役割　社会人の自覚　スキルと目標の重要性　　名刺の受け渡し	会社組織カード　テキスト　名刺ロールプレイ
3	社会常識　日本を知る　漢字の読み書きとカタカナ用語	カードゲーム使用のグループワーク
4	尊敬語　謙譲語　丁寧語　挨拶とコミュニケーション　接遇用語	プリント
5	尊敬語　謙譲語　丁寧語　場面・状況別話し方	プリント　ロールプレイ
6	計算問題とグラフ	プリント　解説カード
7	電話の応対	『言葉づかいとマナー』ビデオ視聴 説明⇒ロールプレイ
8	聴き方とメモの取り方	説明⇒ロールプレイ
9	来客応対　茶菓接待	説明⇒ロールプレイ
10	文書作成と受取り	プリント　解説カード
11	文書作成と受取り	プリント　解説カード　実習お礼状の書き方
12	郵便と配送サービス知識	郵便局ホームページより
13	慶事　弔事　のマナー	祝儀袋見本　慶事・弔事服装、動作の動画　プリント
14	事務用品と働くマナー	プリント　　テキスト
15	模擬試験　解答解説	プリント

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
検定試験（社会人常識マナー検定）、学習意欲および出席率 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	科目終了時に当該科目の出席率が80%以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し

科目名	現場実習				
担当教員	保育現場保育士		実務授業の有無	○	
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	90時間
授業概要、目的、授業の進め方	保育所の現場において初めての観察実習を経験する。そこで保育者および子どもの姿を観察したり、一緒に遊んだり生活をともにする中で、保育士の役割や、子どもについて学習する。 (授業方法：実習)				
学習目標（到達目標）	保育士の役割や、子どもについての理解。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実習日誌				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	事前オリエンテーション	
2	保育現場実習	保育所、認定こども園で１0日間の実習
3		
4		
5		
6		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は保育現場からの評価と実習日誌、事後レポート等を併せて評価 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（100～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	1.現場実習を実施するにあたり、明確な目的、目標を立てること 2．受入施設や企業は多忙な中で協力してくれていることを常に認識し、感謝の気持ちを忘れない 3．社会人としてのマナー、エチケットを遵守し、素直な気持ちで仕事に携わること

実務経験教員の経歴	実習施設の職員が実習生に対しての実習態度、学ぶ姿勢、学習状況においての指導を行う。

科目名	ライフデザインⅠ				
担当教員	荒井　和美　橋本　麻里	実務授業の有無	×		
対象学科	こども保育学科　保育士コース	対象学年	1年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	30時間
授業概要、目的、授業の進め方	1．就職活動の準備とスタート 2．自分と就職を理解する 3．情報収集・企業研究 4．企業訪問について 5．就職試験について　（授業方法：講義）				
学習目標（到達目標）	自分の強み、適性を知り、就職情報収集や企業研究、試験や面接対策を行うことで就職に向けた動機づけを図る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	動画で学ぶ就活ナビ				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	就職活動の心がまえ	動画で学ぶ就職ナビ
2	就職活動の流れ	動画で学ぶ就職ナビ
3	自分自身を知る	動画で学ぶ就職ナビ
4	職業を知る	動画で学ぶ就職ナビ
5	志望動機について	動画で学ぶ就職ナビ
6	情報収集のポイント	動画で学ぶ就職ナビ
7	企業研究の方法	動画で学ぶ就職ナビ
8	作成書類の書き方	動画で学ぶ就職ナビ
9	企業訪問について	動画で学ぶ就職ナビ
10	就職試験のマナー	動画で学ぶ就職ナビ
11	面接対策	動画で学ぶ就職ナビ
12	面接対策	動画で学ぶ就職ナビ
13	筆記試験対策	動画で学ぶ就職ナビ
14	受験後の報告について	動画で学ぶ就職ナビ
15	学校での就職活動手続きについて	動画で学ぶ就職ナビ

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
・成績評価は原則各科目終了時に実施 ・成績評価内容は試験、レポート、授業態度等 ・成績評価基準はＳ（100～90点）、Ａ（89～80点）、Ｂ（79～70点）、Ｃ（69～60点）、Ｄ（59～0点）	科目終了時に当該科目の出席率が80％以上ない者は考査の対象とならずＤ評価となり追試を受験しなければなりません。追試不合格の場合は進級・卒業時に認定試験を受験し、合格しなければ当該科目の単位は与えられません。

実務経験教員の経歴	無し